

望遠鏡

菊地もね

現在地から

いつもの場所から

私から離れたかった

呑み屋のにぎわいから抜け出して

パウダールームに逃げこみ鏡を見ると

地団駄のような噛み癖で唇がぼろぼろになっていた

もうごまかすことはできないと思った

人づきあいの良し悪しがすべての場を降りる

ビルのあいまに見え隠れする月がきれいで

手ごろな紙でも数十回折れば月に届くという計算を思い出した

網膜にあらゆる景色を折りこめば

ここからいちばん遠くへ行けるはずだと信じたくて

ベランダに投げ出されているサボテンの健気な緑を、カーテンのかわりには

短いワンピースの影を、出窓に並べられたクマのぬいぐるみの丸い背中を

折りこんでみると悪くなくて

縁石の横に落ちている髪留めの、燻し銀のトンボの羽を、寒さにもかまわず

放し飼いにされているオウムの、黄色くどがったくちばしを、ツタに覆われ

た庭から逃げて、柵のすきまで静かに息をする青いバラを、取り壊しのさな

かで放置された小屋の、風呂場の壁だったとわかる唐突なピンクのタイルを、

今日も夕暮れに追いつけなかった私を待ってくれている、三時五十分から動

かない公園の古い時計台を、夜は危ないから気をつけなさいねの言いつけを

破り、真っ暗な林から見あげたスバルの白さを

この帰り道を、固有性を、目を刺す色を折りこんでみればじゅうぶん

ドアスコップからのぞく自分の部屋は

月よりもぼやけた輪郭をしている